

少年センターだより

平成30年7月19日
発行
日野町少年センター
日野町河原1丁目1番地
TEL/FAX 0748-53-1325
<http://www.rmc.ne.jp/h.g-s.c>

「子どもたちの明るい未来を信じて」

県立日野高等学校
校長 藤井 晃一

この四月より日野高校の校長として着任いたしました。十七年ぶりの日野高校勤務となります。当時と変わらないうやさいい地域の方々に見守られ、穏やかに勤務させていただいています。保護者の中には教え子もおり、時代の流れを感じつつ、地元のを学校を大切にしようというこの日野の風土をありがたく思っています。

しかし、地域のあたたかさは変わらずとも、社会全体、とりわけ子どもたちを取り巻く環境は大きく変化してきました。

情報化社会が進み、中高生のほとんどが携帯電話を持ち、スマホひとつであらゆる世界とつながっています。スマホ片手に必要な情報や欲しいものが手に入ります。しかし、便利な反面、ダークな世界ともつながり、一歩間違えば子どもたちは社会の「悪」に巻き込まれる危険にあります。

さらに、少子高齢化で子どもの数も減り、子どもたちが普段から集団や地域の中で規範や社会性を身に付ける機会が減ってきています。大人社会においても直接的な人間関係は希薄となり、特にコミュニケーションとしての地域の連帯も失われつつあります。かつては、地域全体で子どもたちを見守り、育てる環境や教育力（たとえば悪いことをすれば他人の子どもも叱れる。近所の子どもたちのことは地域の多くの大人が知っているような安心ネットワーク）がありました。それが「公」より「私」を優先する社会の風潮の中、いいおせっかいが通用しない世の中になってきています。

民法が改正され、十八歳が成人となってきました。より早い時期に子どもたちが「大人」とみなされることとなります。この時代だからこそ、日野町がずっと続けてきた「地域の子どもは地域で守る」「社会全体で子どもの育ちを支える」熱い思いと行動がより必要となると考えます。

子どもたちは社会の宝です。将来の日本を支える希望です。学校・園、家庭や地域が一体となって、子どもたちが明るい未来を語れるような環境をつくっていくことが大切だと思います。



近畿少年補導功労者表彰 森田貞夫さん

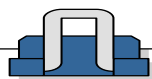
6月5日にプリムローズ大阪で日野町少年補導(委)員会会長の森田貞夫さんが、近畿管区警察局長及び近畿少年補導委員等連絡協議会会長から少年補導功労者に選ばれ、表彰式が行われました。

森田さんは、平成5年から少年補導(委)員を長年務められ、少年の非行防止や健全育成にご尽力された



ことから今回の受賞となりました。

受賞された森田さんは「この賞を励みに今後も補導活動がんばっていきたい」と語っておられました。



行事予定

- 7月24日 少年補導委員県外研修
(浪速少年院)
- 8月4日 氏郷まつり夏の陣の街頭補導
- 8月7日 有害図書立入調査
- 8月9日 薬物乱用防止教室指導者研修会
- 8月25日 滋賀県少年補導センター研修大会
- 8月28日 有害図書立入調査

毎週金曜日 街頭補導

毎週金曜日 学習支援IPPO(いっぽ)
センター職員随時パトロール

ペープサートで園児に啓発

6月29日(金)、日野町少年補導(委)員会では、こばと園で防犯教室を開催し、ペープサートで「知らない人にはついていかない」という劇を上演しました。

保育園で開催するのは初めてでしたが、3歳児から5歳児とあって劇中に出てくる質問にもしっかり答えてくれて、みなさん熱心に鑑賞してくれました。

その後、必佐駐在所のおまわりさんから、知らない人に声を掛けられたり、連れて行かれそうになったら、「大声を出す、すぐ逃げる、大人に知らせる」などお話がありました。

また、劇に出てきた紙人形の熊の「くまおくん」が着ぐるみとなって登場し、みんなから歓声が上がりました。「くまおくん」は、劇の中でおもち



ゃをあげると言う知らないおじさんに付いて行ったことを反省し、最後にみんなで一緒に「知らない人にはついていかない」と約束しました。



知らない人には



ついていかない

青少年の非行・被害防止滋賀県強調月間

滋賀県では、7月1日から31日までの間、「地域の力で子どもをまもりはぐくむ」を重点テーマに、青少年の非行・被害防止滋賀県強調月間が実施されています。重点施策として「インターネットの非行・被害防止対策の推進」「万引きを抑止する対策の推進」が掲げられ各地で様々な啓発活動が行われています。

日野町では、日野町少年補導(委)員会を始め各関係機関が協力し、啓発物品の配布をして広く市民の皆さんに青少年の非行・被害防止の啓発を行いました。



コミュニティサイト等を使っの犯罪被害にあう子どもが年々増加！

コミュニティサイト等を使った性犯罪や児童ポルノ被害などの犯罪被害にあった18歳未満の子どもが年々最多を更新しています。被害にあった子どものうち、スマートフォン利用は約9割となっています。スマートフォンの普及に伴い、被害にあう危険性が増加しています。

また、被害にあった子どもの約9割がフィルタリングを利用していませんでした。



～子どもを犯罪被害から守るために～

- ◎子どもが使用するスマートフォン、携帯電話にはフィルタリングを設定する。
- ◎個人を特定されるような情報を書き込んだり、他人に教えない。
- ◎下着姿や裸の写真は、絶対に撮らない、撮らせない。
- ◎コミュニティサイト等で知り合った人と不用意に会わない。
- ◎家庭でスマートフォン、携帯電話を安全に使うルールづくりをする。

つぶやき

『おはよう』で心の扉を！

朝のあいさつ運動で中学校の校門前に立っていると、「おはよう」「おはようございます」と元気な声が飛び交う。真新しい自転車、あの子は今年入学した子かなあと思いながら「おはよう」と返す。1年前と比べると子ども達の表情が随分と明るくなったように感じる。

100人位にあいさつしたかなあと思っていると、二人の女生徒が「コーチ、ハイタッチ」と近寄って来た。この老人にと疑った。よく見るとミニ陸上で指導した子ども達だ。私は「がんばれよ」と言った。こんな素直で明るい元気な子ども達が悪の道に進まないよう祈ると共に、補導活動の中で子ども達がどのように変わっていったのか見守っていききたい。

少年補導(委)員 榎野 賢一

第68回社会を明るくする運動

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

7月は社会を明るくする運動強調月間・再犯防止啓発月間です。

- 地域のチカラが犯罪や非行を防ぎます。
- 犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域の力となります。
- みんなで考え、社会を明るくする運動にご参加ください。



子育て小窓

連れ去られ線路内に遺棄された新潟の小学生。「もっといい子になるから、もうゆるして…」と書き綴りながら親によって死に追いやられた神奈川の5歳の女の子。子どもたちをめぐって連日のように報道される痛ましい事件の数々。

一方で、自らの体と心を傷つける子ども達や学校に行けなかったり、反社会的・非社会的行動をとったりする子ども達が少なからず居るのも事実です。

親は、大人たちは、地域社会は、家庭で・学校で・地域社会の中でもがき苦しんでいる子ども達をどの様に捉え、理解し、関わってあげたいのでしょうか…。

日野町には「子育て・教育相談センター」という機関があります。発達や心の問題の専門家である心理士がいつもいます。心配事や悩み、お困りが有れば一度相談されてはいかがでしょうか。まずは53-3838にお電話下さい。

次号から「子育て・教育相談センター」がコラムを担当させて頂きます。

1人で悩まないでまずは相談を

少年センターでは、少年に関する悩みや心配ごと相談を行っています。本人だけでなく、家族の方の相談も受けています。無職少年の就労・就学の支援も行っています。お気軽にお越しください。秘密は厳守します。

○電話相談 ○面接相談

○相談時間：月～金 9:00～16:30

日野町少年センター（日野町勤労福祉会館 2階）

電話 0748-53-1325

E-mail hino.t-syonen@rmc.ne.jp